

## 9. プーチン大統領の2018年施政演説



2018年3月1日、プーチン大統領は、連邦議員を含むロシア指導者を集めて年次施政報告演説を行った。その中で大統領は、米国ブッシュ政権が2002年にABM条約を失効させ、弾道ミサイル防衛(BMD)の構築に走って以後、BMDに打ち勝つためにロシアが開発した新しい概念の戦略兵器の数々を大スクリーンに映し出して披歴した。新しい軍拡競争の始まりを告げた演説といっても過言ではない。本章11に新兵器を表にしている。

### ❖ ロシア連邦議会に対する大統領演説(抜粋) ❖

2018年3月1日

(前略)

米国が一方的に対弾道ミサイル(ABM)条約から脱退して以来、この十数年間、ロシアは、進んだ設備と武器の開発に集中的に取り組んできた。その結果、戦略兵器の新モデルの開発において大きな躍進を遂げることができた。

米国は、主に、弾道軌道をえがく戦略兵器を迎撃するため、世界規模のミサイル防衛(以下、BMD)システムを構築していることを想起してほしい。こうした戦略兵器は、他の核保有国と同様に、ロシアの核抑止力のバックボーンを形成している。

そのため、ロシアは、BMDシステムを無力化するために、完全で非常に効果的だが、価格をおさえたシステムを開発し、そのための取り組みを続けている。(後略)

加えて、ロシアは、次世代ミサイルの開発に乗り出した。例えば、国防省とミサイル及び航空宇宙産業の企業は、重量級の大陸間弾道ミサイルを含む新たなミサイルシステムの実験を活発に行う段階に入っている。我われは、それをサルマートと呼んでいる。サルマートは、ソ連で作られたポーボーダ・システムに取って替わることになるだろう。同システムの持つ計り知れない力は全世界に知られていた。(略)とは言え、サルマートのミサイル能力ははるかに高い。重量は200トン以上で、加速段階が短い。そのためBMDシステムにより迎撃するのがより困難になる。この新たな重量級ミサイルの射程距離、戦闘ブロックの数と力はポーボーダより大きい。(略)

しかし、我々はそれに止まらなかった。ターゲットに向かって移動するときに弾道軌道を全く使用しない新型の戦略兵器の開発を始めた。(略)それらの1つは、ロシア最新のX-101空中発射ミサイルや米国のトマホークミサイルのようなミサイルに搭載可能な小規模で頑丈な原子力ユニットである(略)核弾頭を搭載した低空飛行ステルス・ミサイルで、制約がほとんどない射程、予測不可能な軌道、迎撃境界を迂回する能力を備えている。(略)

さて、我々は、無人兵器システムの設計と開発が、世界のもう一つの共通の傾向であることを知っている。ロシアは、最速のものを含む潜水艦、最先端の魚雷、あらゆる種類の水陸両用艦艇の速度よりも数倍の速度で、非常に深い所(極度に深い所と言ってもよい)大陸間で移動可能な無人潜水機を開発した。(略)

最新の兵器システムの開発において最も重要なものは、高精度の極超音速空中発射ミサイルシステムの構築であった。(略)同システムの実験は成功裏に完了し、さらに、昨年12月1日、同システムは、南部軍管区内のいくつかの飛行場において試験的な運用を開始した。高速の運搬航空機の持つ飛行上のユニークな特性により、数分以内でミサイルを発射地点に運搬することができる。2000キロ以上の射程距離を持ち、核及び通常弾頭を運搬する音速の10倍速い極超音速で飛行するミサイルは、飛行軌道のあらゆる段階で操縦可能であり、そのため、既存の全ての、そして私が思うに、将来開発される防空及びミサイル防衛システムを無効にすることも可能である。我われは同システムをキンジャル(短剣)と呼んだ。

(略)

ロシアは、誰も脅していないし、誰も攻撃しないし、兵器で脅して誰かから何か奪うつもりもない。ロシアは何も欲していない。その真逆である。私は、増え続けるロシアの軍事力は、世界平和のための確固たる保証であると強調する必要があると(そして、これはとても重要であると)考える。

(略)

核兵器使用のハードルを下げる機会を拡大する、改訂された米国の核態勢見直し(NPR)の中のいくつかの項目にロシアは深刻な懸念を抱いている。(略)そして、核態勢見直しに書かれているのは、通常兵器による攻撃及び、サイバー空間での脅威に対してさえ、この戦略が実行に移され得るということである。核による攻撃、または、その他の大量破壊兵器によるロシアまたは同盟国への攻撃、または、通常兵器を使用した、まさに国家の存亡を脅かすロシアへの侵略行動に対してのみ、ロシアは核兵器を使用する権利を保有するとロシアの軍事ドクトリンに書かれていることを指摘しなければならない。これらは全て明確で具体的である。

(前略)ロシアまたは同盟国に対するあらゆる核兵器の使用は、短距離であれ、中距離であれ、いかなる射程距離のものであっても、ロシアに対する核攻撃とみなすだろう。(ロシアは)直ちに報復を行い、それに付随するすべての影響が生じるだろう

このことについて、いかなる疑念も存在しない。世界にこれ以上脅威を創り出す必要は全くない。そうではなく、交渉のテーブルに着き、人類の文明のために国際的安全保障と持続可能な発展のための新たな意味のある体制をともに考案しよう。(中略)ロシアにはそうする用意がある。

ロシアの政策が例外主義の主張に基づくことは決してない。ロシアは自分たちの利益を守るとともに、他国の利益を尊重する。ロシアは国際法を遵守し、国連の持つ侵すことのできない中心的役割を信じている。それらは、ロシアが絶対多数の国ぐにと強固で、友好的で、対等な関係を築くことを可能にする原則及びアプローチである。(後略)

出典：ロシア大統領府HP

<http://en.kremlin.ru/events/president/transcripts/56957>

アクセス日：2020年3月23日